

表2 ストーマ周囲皮膚炎が疑われる場合の問診のポイント

●いつ頃から
●どのような症状
●自覚症状(痛み, 掻痒など)
●過去に同様の症状が発生したことはあるか
●使用装具(アクセサリーを含む)
●装具交換間隔
●ケア主体者, 介助者
●日常生活への影響
●心配, 困っていること
●最近の変化(治療薬の変更, 生活, 体調不良, 体重の増減など)
●装具およびケアに関する希望

観察のポイント (表3)

観察のポイントは、まず面板を剥がす前に、面板外縁のよれ、しわ、めくれはないか、また面板貼付部外の皮膚障害の有無をみます。次に面板を剥がし、皮膚状態を観察し、皮膚炎の発生部位と面板貼付部との関連をみます。皮膚炎はストーマ近接部や面板外縁の粘着テープ部分などに限局する場合もあれば、面板貼付部全面に認められる場合もあります。同時に、剥がした面板の裏面を観察し、排泄物が付着している部位と皮膚の状態を見比べます。

ストーマ部が露出した状態のまま、可能な範囲

表3 ストーマ周囲皮膚炎発生時の局所状態の観察ポイント

●面板を剥がす前 面板のよれ, しわ, めくれ, 面板周囲の皮膚など
●面板を剥がした後 皮膚炎の発生部位, 症状 体位による腹壁とストーマの変化 ストーマ合併症の有無(ストーマ旁ヘルニア, ストーマ脱出, 没ストーマなど)
●装具交換とスキンケアの方法 剥がし方, 洗浄方法, 拭き方, 面板の穴あけサイズ, 貼り方など
●排泄物の性状・量

で座位、立位、臥位、前屈位をとってもらい、体位によるストーマの形状、排泄口の高さや向き、腹壁のしわやたるみを観察します。体位によりストーマの形状や腹壁に変化が生じ、面板が密着していないため、排泄物が付着してびらんが生じている場合もあります。

装具交換とスキンケアの方法(剥がし方、洗いや拭き方、面板の穴あけサイズ、貼り方など)は、患者や家族に実際に行ってもらい確認します。

その他、栄養状態、排泄物の性状と量、薬物療法に伴う皮膚障害(抗がん薬、分子標的治療薬、ステロイド剤など)、併存疾患、経済状況、セルフケア能力などの情報を収集します。

ストーマ周囲皮膚炎発生時の原因アセスメントと対策

問診と観察を通して、ストーマ周囲皮膚炎の原因をアセスメントします。入院中の場合は、装具交換の度に、複数の看護師で原因をアセスメントし、対策、評価を行うことができます。一方、外来通院中の場合は、当日の限られた時間で原因をアセスメントし、ケア方法や装具変更の必要性を判断する必要があります。

装具を変更した場合、個人差はありますが、1か月以内を目途に、局所状態、漏れの有無、使用感、セルフケア状況などを評価します。外来受診まで期間が空いてしまう場合には、電話による相談、訪問看護師との連携を図るなどの配慮が必要です。

以下にストーマ周囲皮膚炎が発生した外来患者の事例を紹介します。

事例1: Sさん, 60歳代, 女性, 直腸がん, 左結腸単孔式ストーマ (図1)

術後4か月、外来の定期受診日にSさんから「最近、ストーマの周りが赤くただれている。ときどきピリピリする」との発言がありました。医師はSさんに「ストーマ外来でみてもらいましょう」と話し、同日にストーマ外来受診となりました。Sさんはストーマ外来担当看護師に「自分のやり方が悪いのかしら? 今までかぶれていなかったのに…何でただれてしまったのかわからない。こんなことがあると心配です。治りますか?」と語り、ストーマ管理に不安を抱いていました。

〔ストーマサイズ〕

長径23mm, 短径22mm, 排泄口の高さ7mm

〔使用装具〕

ニューイメージ FWF 凸面テープ付き 57mm
ニューイメージ ロックンロール 57mm
アダプト皮膚保護シール, 皮膚用リムーバー

〔装具交換間隔〕

5日に1回

〔原因のアセスメント〕

便は泥状から粥状、体重は退院時に比べ3kg増加、装具は退院時と同じものを使用していました。ストーマ近接部全周に約10mmのびらんが認められました。ストーマサイズに見合った穴あけサ

イズでしたが、面板の裏面には全周約10mmに便が付着しており、びらんの部位と一致していました。びらんの原因として、退院時に比べてストーマサイズが小さくなったため、面板の凸部がストーマ近接部に密着していないことに加えて、便が泥状から粥状で皮膚に付着しやすいことが考えられました。

〔対策〕

面板の凸部がストーマ近接部に密着するように装具サイズを変更し、びらん部には粉状皮膚保護剤を散布することをアドバイスしました(図2)。

〔装具の変更〕

ニューイメージ FWF 凸面テープ付き 45mm
ニューイメージ ロックンロール 45mm
アダプト皮膚保護シール, 皮膚用リムーバー

〔対策後の経過〕

装具変更後、約10日でびらんは治癒し、Sさんは「治って安心しました。もっと早く来ればよかった」と語りました。今回は面板サイズのみの変更であったため、使用感やケア面での問題はありませんでした。



図1 Sさん, 左結腸単孔式ストーマ

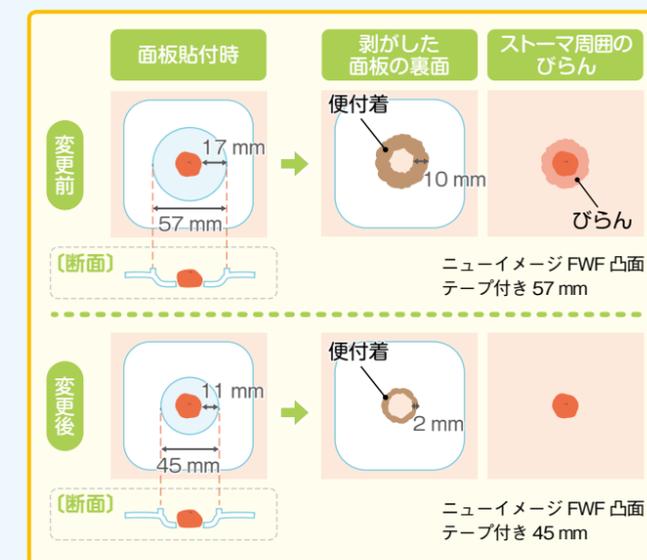


図2 凸型面板のサイズ変更